

## 子どもたちの祭典

11月3日（火）、子どもの祭典（町子ども会育成連絡協議会（長内慎司会長）主催）が鶴遊館と体育センターを会場に開かれ、町内の子どもたち210人が参加しました。

イベントでは、会場内に隠された単語を探して正しい文章を完成させるゲームが行われ、子どもたちが単語が書かれた紙入りの封筒を探して会場を駆け回っていました。参加した鶴田小6年の下山朝輝くんは、「おもしろいゲームがたくさんあるので、毎年楽しみにしています」と話していました。

また、町内の子ども会による出店も開かれ、炊き込みごはんやおでん、つきたてのお餅などの食べ物を子どもたちが友人や父兄と一緒に買い求めていました。



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場総務課まちづくり班（内線264）までお知らせください。



△封筒の中の単語を確認する子どもたち

## 野球協会に文科省表彰

鶴田町野球協会（澁谷兼幸会長）が、文部科学省の「平成27年度生涯スポーツ優良団体」に選ばれ、11月9日（月）、澁谷会長が相川町長から表彰状を伝達されました。澁谷会長は「会の活動に対しては多くの応援をいただいている。町の野球人口が少なくなっているため、子どもたちが野球の楽しさに触れられる機会を作りたい」と今後の活動に意欲を示していました。

同協会は、今年で設立41年目。これまで、町の朝野球をはじめ、小中学校、壮年・還暦野球大会等を実施しており、今年7～8月に開催された「青森県50歳野球大会」では優勝するなど、町のスポーツ振興に大きく寄与されています。



△相川町長、中野教育長と喜びを分かち合う澁谷会長（中央）



## 町に車イスを寄贈

11月10日(火)、11日(水)、県西部郵便局長会五所川原部会(奈良智機部会長)と県遊技業協同組合西北五支部(林成鎬支部長)がそれぞれ役場を訪れ、町へ車イスを寄贈しました。

県西部郵便局長会の奈良部会長は「思いやりの気持ちを形にさせてもらった」と述べ、アルミ製の折りたたみ式車イス1台を寄贈しました。また、県遊技業協同組合では、地域社会貢献事業として平成21年より車イス寄贈の活動を続けており、今回、鉄製の車イス1台を寄贈しました。相川町長は「高齢者や障害者の方々のために使わせていただきたい」と話していました。

車イスは豊明館と公民館に設置されています。



△寄贈された車イス(写真は県西部郵便局長会五所川原部会)



△丹精込めて作ったリンゴを持ち寄る会員の皆さん

## 学校給食へリンゴ寄贈

11月13日(金)、若手農業後継者団体「鶴田町みどりの会」(蒔苗直樹会長)が町の学校給食用に、ふじ33箱(約660kg)を寄贈しました。

同会のリンゴの寄贈活動は平成17年から始まり、今年で10回目。今年10月に起きた強風により、会員の畑が落果の被害を受けたものの、「子どもたちにおいしいリンゴを」との思いから、今年も無償でリンゴを提供してくれました。

蒔苗会長は「今年のリンゴは味も良く、蜜入りも最高。子どもたちには、リンゴを食べて健康に過ごしてほしい」と話し、中野雄臣教育長は「毎年リンゴを提供していただき、子どもたちも楽しみにしています」と感謝していました。

## 感謝の気持ちでもちつき

11月21日(土)、菖蒲川小学校で三世代交流もちつき会が開かれ、全校児童39人が父兄と一緒につきたての餅を味わいました。

もちつき会は、毎年、学校田で児童が収穫したもち米を使って行われ、児童と地域の方々の交流の場となっています。今回、学校田を24年間、管理し、児童の米づくり体験学習に協力してきた石岡三弘さんらへ感謝状が贈られました。石岡さんは「子どもたちの笑顔を見るのが楽しみで今まで続けてこれた」と感慨深く話していました。

2年生の佐藤もかさんは「きねが重かったけどもちつきは楽しかった。つきたてのお餅は柔らかくておいしい」と笑顔で食べていました。



△父兄の手を借りて児童たちが「よいしょー!」の声で餅つき